

誌上行学講習会

高佐日焯上人

と声聞心の天上心は快智行心。これは味あおう
 つと思えば誰でも味える喜び。一冊の本を破し
 た時の喜び等類の心であります。一冊の本と
 の為になる小説類のことであります。人生
 すのわける類のものはなせんが、私には訓練
 如半なればよい。本に楽しく三人
 は間半まるかたい本といえども、本に楽しく
 五分も読めないと答であります。その本の十
 快智行心と申します。これは果てしな
 も求め探る心であります。学問は果てしな
 きもので、今日のよう人類が文化の世界を築
 し、あらゆる知識も深く来たります。
 為には常にそれを学び求めようとする追求心
 なければなりませぬ。そういう心で積極的
 勉強したいという心を究知行心と言ふのであり

学問の中の縁覚心は智行三昧心。これは
 心理。我を忘れてぼっとうしている時の
 もの教育する。学校の教師（先生）がこれに
 えかもしれません。灰身滅智心。これはもう
 少し教課が進んでから申上げます。今申し
 上る。かえって混同することになり、今申し
 の空観の思想が阿羅漢と申します。この阿羅
 かまえた人を阿羅漢と申します。これがこの阿羅
 漢の境地に入りました。いたづれの心は後程申し
 こと致します。いづれの心は後程申し上げる

以下次号